

第5学年国語科学習指導案

公開	/ 児童	1組	男16名	女12名	計28名
	指導者	佐藤	隆之		
公開	/ 児童	3組	男15名	女13名	計28名
	指導者	薄衣	浩子		

1 単元名 体験したことを分かりやすく伝えよう

2 教材名 わたしたちの学校生活

3 単元について

(1) 指導の重点

第5・6学年の書くことの指導の目標は、「目的や意図に応じ、考えたことなどを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる。」である。これを受けて、本単元においては、「自分の体験したことや考えたことについて、いちばん伝えたいことが相手によく分かるように、効果を考えて書くこと」をねらいとしている。

自分の体験や思いを分かりやすく伝えるためには、それらを見つめ直し、相手や目的に応じて言葉にしていくことが必要である。そこで本単元においては、まず、数々の体験の中から伝えたいという題材を選び出すこと、次に主張したいことを中心にした取材活動ができること、さらに取材した中から選材し効果的に組み立てて記述することを主なねらいとする。今回の一連の表現活動を通して、これらの作文を書くうえで基本となることをていねいに指導していくことが大切であると考え。

(2) 児童の実態

これまで児童は、いろいろな種類の作文に取り組んできた。課題作文や感想文、日記などを書く活動を通して、伝えたいことを意識して作文することができるようになってきている。「依頼やお礼の手紙」を書く単元では、相手を意識することや文末の表現に気を付けること、「言葉の研究レポート」では、分かったことと考えたことを区別して書くことも学習している。また、集会等で他の学年の子が書いた作文を聞いたり、学級の友達が書いた作文を読み合ったりする活動を通して、表現のよさを見つけることができるようになってきている。しかし、自分の作文については、構成に気を付けたり効果的な表現方法を考えて書いたりできないことが多い。

(3) 教材観・指導観

本単元では、大きく分けて二つの内容を扱う。一つ目は、日常の体験の中から題材を選び作文に書き表すこと、二つ目は、その作文をもとに父母に対してスピーチをするというものである。この二つの内容のうち、作文を書く活動の方に重点をおいて指導していく。

理解

親子行事を行う際に、父母に向けてこれまで体験したことの発表会を行うことを知らせる。作文を書くにあたっては、まず誰に、何を伝えたいのかという、はっきりした相手意識・目的意識をもたせる。

取材

どんな体験をしたのか、また数ある体験のなかから、なぜそのことを選び出したのか「思い」の伝わる作文にしたい。そのために、まず初めに主題文を書いておき、その主題に関わって取材活動を進めていくようにする。

構成

主題文をどこに書くかを決める。その後取材カードから必要なものを選び、構成表を完成させる。

記述

伝えたいことが読み手によく分かるように、詳しく書く部分と簡単に書く部分を考えて書くようにする。

推敲

読み手を意識し、伝えたいことがよく分かるように書いているか推敲し、表現の仕方を工夫するようにする。

評価

小グループごとに友達の作品を相互評価し合うことを通して、作品のよさを学び合う。

書き上げた作文から、スピーチ用の原稿を作る活動を行う。その際、常に、相手は学校生活の様子を知らない父母を対象にしていること、また限られた持ち時間のなかでスピーチを行うこと、以上二つの条件を念頭に置いて作文を書き直すようにさせたい。

4 単元の見直し

学校生活で体験したことを分かりやすく書いて、相手に伝える。

書いたことをもとに、相手や目的を考えてスピーチする。

【関心・意欲・態度】

これまで自分が体験したことの中から題材を選び、分かりやすい文章を書こうとする。

【書く力】

伝えたいことが読み手によく分かるような組み立てを考えて書く。

いちばん伝えたいことがよく分かるように、効果を考えて詳しく書く部分と簡単に書く部分とを考える。

【話す・聞く力】

学校生活で体験したこと、考えたことを、相手を意識して分かりやすくスピーチする。

【言語の力】

文や文章にはいろいろな構成のしかたがあることを理解する。

5 単元の指導計画・評価計画（11時間）

段階	時間	指導目標	学習内容	評価規準
理解	1	・作文に書きたい体験を話し合い、題材を決める。	・5年生になって、学校生活でのどんな体験が心に残っているかを話し合う。 ・友達の発表や教材文を参考にして、作文に書く題材を決める。	問 これまでの学習を振り返り、何を伝えたいのかを決めることができたか。
取材	2	・主題を意識して、取材カードに必要な事柄を書き出す。	・教科書を読み、取材カードの書き出し方を理解する。 ・教材文を参考にしながら、必要な事柄をカードに書き出す。	読 主張をはっきりさせること、取材カードをもとに作文を書いていくことを理解できたか。 書 したこと、思ったこと、主題文の3つの観点ごとにカードに書き出しているか。
構成	1 本時	・伝えたいことが分かるように構成を考える。	・文章の組み立てを考え、カードに番号を付けて構成表を作成する。	書 適切にカードを選び、主張したいことが効果的に伝わるように組み立てを考えることができたか。
記述	1	・構成表に従って、主張したいことがよく伝わるように作文を書く。	・叙述を工夫し、伝えたい体験と意見を文章にまとめる。	書 つなぎ言葉を適切に使ったり、文末表現を考えたり、詳しく書くところと簡単に書くところを考えたりしながら文章を書くことができたか。
推敲・評価	2 2/2 本時	・書き上げた文章を構成表と照らし合わせながら読み返し、推敲する。 ・友達の作文を読み合い、よさを学び合う。	・書き上げた作文を推敲し、清書する。 ・小グループになり、友達の作文を読み合い、表現のよいところを探し、グループどうしの交流をもつ。	問 よりよい表現の工夫をしながら、推敲することができたか。 書 友達の作文を読み、よさを見つけることができたか。
話すこと・聞くこと	1	・清書した作文を、聞き手を意識して、目的や時間に応じた適切な言葉遣いで話す原稿に書き換える。	・書いた文章をもとに、スピーチ原稿を作る。	書 聞き手を意識して、相手に分かりやすい言葉に直しているか。
	1	・話す速さや時間、強調したいことや抑揚などを意識して、発表の準備をする。	・スピーチ原稿をもとに、発表の練習をする。	話 話す速さ、声の大きさ、抑揚などに気を付けて練習しているか。
	1	・聞き手を意識してスピーチをする。	・スピーチをする。	話 発表するとき、原稿の内容だけでなく声の大きさや顔の表情などにも注意することができたか。
	1	・学習を振り返り、自己評価をする。	・スピーチをした感想や、友達の発表を聞いて参考になったことなどを話し合う。	問 報告会を通して、自分の話がどう聞き手に受け止められたか、自分の考えがどう広まったり深まったりしたかという観点で、自己評価をすることができたか。

6 本時の指導（1組 構成）

(1) 本時の目標と評価規準・支援

指導目標	評価規準	具体的評価規準		努力を要すると判断される児童への支援
		概ね満足できる (B)	十分満足できる (A)	
伝えたいことがよく分かるように、構成を考える。	【書く力】 適切にカードを選び、伝えたいことがよく分かるように構成を考慮することができる。	伝えたいことが分かるように主題を中心に構成表を作ることができる。	伝えたいことが分かるように構成表を考え、その理由づけができる。	どのことを中心に書くのかいっしょに考え、時間的な順序などに気を付けて構成を立てさせる。

(2) 指導にあたって

伝えたいことを分かりやすく書き表すためには、主題となる事柄を中心に書くこと、主題に迫るためにどんな順序で述べるのかその構成を考慮することが必要である。そのために、まず自分が何を伝えたいのか（主題）を意識させる。

構成には、主題を置く位置によって頭括、尾括、双括の型に分けられる。主題をどこに置くかで、伝えたいことや文章全体の印象も変わってくる。具体的な例を示してその構成の効果について知り、自分の伝えたい内容に合わせて主題の位置を考えさせる。そして、自分の伝えたいことを中心に、カードのどれが必要なのか、また、どのような順序にするか考えさせる。

構成表を作ることはそれぞれ個人の作業であるが、友達の考えた構成について考えることで、さらに自分の構成を見直すことができるようにする。

(3) 展開

段階	学習過程	学習活動	支援 指導上の留意点・評価【 】
導入	課題把握	1 本時の学習課題をつかむ 伝えたいことがよく分かるように、構成を考えよう。 自分の伝えたいこと（主題）を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことが分かるようにするためには、書いたカードを取捨選択し、どのような順序で書くのか考える必要があることを知らせる。 ・あらかじめ決めてある主題を初めに確認させてから、構成を立てさせる。
4分	課題の追究 方法の 理解	2 組み立てを考える。 ・例文で構成を考える。 頭括（主題が導入部にある。） 尾括（主題が結末部にある。）	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいこと（主題）が、文章の中でどの部分にあるのか気を付けさせる。 ・主題の位置によって、文章全体の効果が変わってくることに気付かせる。 ・文章は主題と主題を支える部分によってできて、お互いに作用し合っていることをおさえる。 ・例文の構成を参考に自分にはどの構成のしかたが効果的か考える。
	実作	3 自分の構成表をつくる。 ・構成表を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを分かりやすくするためには、伝えたいことを中心に書く内容を決めること、また、どうしてそのように考えるのか、その理由が分かるようにカードを選ぶようにさせる。 ・必要でないカードは除かせ、足りないところはカードを書いて足してよいことを知らせる。 ・分かりやすくするためにはどのような順序にすればよいのか考えさせ、カードに番号をつけさせる。

36分	発表	<p>4 友達の構成表について、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の構成表を取り上げ、その構成について考える。 <p>5 自分の構成表を見直す。</p>	<p>児童の主題を把握しておき、困っている児童に対しては、主題をどこにおいたらよいかいっしょに考える。主題が分かりやすくするためには、どのことを書けばよいか、また、時間的な順序を考えながら、必要なカードを選ばせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視点を持って友達の構成表を考えさせる。 ア伝えたいことが分かるように、何を重点に書こうとしているのか。 イ考えた構成に合った、カードが選ばれているか。 ・ 自分の構成表を同じ視点で見直しをさせる。 <p>【書く力】 適切にカードを選び、伝えたいことがよく分かるように組み立てを考えることができたか。</p>
5分	まとめ	<p>6 本時の学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価し、感想を書く。 <p>次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたいことが分かるように構成表を作ることができたか、友達の構成の良さに気づくことができたか等について自己評価させる。 ・ 次時は、構成表をもとに、文章にまとめることを知らせる。

6 本時の指導（3組 評価）

（1）本時の目標と評価規準・支援

指導目標	評価規準	具体的評価規準		努力を要すると判断される児童への支援
		おおむね満足できると判断する視点(B)	十分満足できると判断する視点(A)	
友達の作文を読み、作品のよいところに気が付くことができる。	【書く力】友達の作文を読み、作品のよさを見つけることができる。	友達の作文を読み、構成や表現の工夫のよいところを見つけることができる。	友達の作文を読み、構成や表現の工夫のよいところを、その理由とともに見つけることができる。	詳しく書いてある部分や簡単に書いてある部分を探し、表現のよいところに目を向けさせる。

（2）指導にあたって

本時は、友達の作文を読み合い互いの作文のよさを発見し合うことにより、自分の作文の優れた面が分かること、また友達の作文から自分の作文に生かせる内容や表現を発見できること、以上の2点をねらいとしている。

そのために、相互評価の目的は、相手の作文をよりよいものにするアドバイスをするためにあるという意識をもたせる。次に方法の理解の段階において、代表児童の作文を提示し、よさを見つけるための観点を示す。その後4人をひとつの組とするグループに分かれ、友達の作文のよさを見つけカードに書き出す活動を行う。グループ活動においては、よさだけでなく、質問をしあったり気がついたことを発表し合ったりする時間も設ける。その後全体の場に話し合いを移し、グループで出されたことを交流する。これらの活動を通して、自分の作品を深く見つめ、次に生かせることを学ぶ機会としたい。

(3) 展開

段階	学習過程	学 習 活 動	支援 指導上の留意点・評価【 】
導入 3分	課題把握	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の学習課題をつかむ。 友達の作文のよいところを見つけよう。	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習を想起させる。
展開 36分	課題の追求 方法の理解	3 代表児童の作文をもとに、よさを見つける。 ・よさを見つける観点を知る。 ・代表児童の作文の発表を聞く。 ・観点到気を付け、見つけたよさに線を引く。 ・よさを発表し合う。 4 グループごとに友達の作文を読み合い、見つけたよさや感想を話し合う。 ・3人の作品を読み、よさを見つけカードに書き出す。 ・見つけたよさや感想を話し合う。 5 グループで出された意見を交流し、構成や表現の工夫のよさを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 3つの観点（構成のよいところ、詳しく書いているところと簡単に書いているところ、表現を工夫しているところ）を示す。 印刷された作文を黙読しながら、作文の発表を聞くようにする。 観点到に従い、サイドラインを引かせる。 見つけたよさは、どの文や箇所、なぜよいと思ったのか発表させる。 ひとつの作品ごとに1枚のカードを用意し、その同じカードに3人がそれぞれ見つけたことを書き出していくようにする。 なぜよいと思ったのか、できるだけ理由についても書くように、指示する。 机間巡視し、よさを見つけられないでいる児童には、詳しく書いているところと一緒に探し、表現のよさに目を向けさせる。 【書く力】 友達の作文を読み、よさを見つけることができたか。 よさだけでなく、よりよい作品にするためにこうした方がよいと気が付いたことがあれば、発表させる。 特に全体場で紹介したい作品があったか問かけ、グループでどんな意見が出されたのか発表させる。
終末 6分	まとめ	6 本時の学習を振り返り、友達の作文から、よさや表現の工夫を見つけることができたか自己評価する。 ・自己評価をし、カードに感想を書く。 ・次時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価カードに、友達の作品から見つけて自分の作品に生かせそうなことや、感想、友達に指摘されて気がついた自分の作品のよいところなどをまとめる。 次時は、父母への発表会に向けて、スピーチ用の原稿に書き直すことを予告する。